

平成23年度 燕市・西蒲原郡家庭科部会の取組

1 研究主題 「実践意欲を高める家庭科指導の工夫」

2 研究の概要

(1) 第1回部会 6月1日 授業研究「できる仕事から始めよう：針と糸を使って」(5学年)
～ICTとボランティアを活用した授業実践～

授業者 燕市立分水北小学校 足立 敦子 教諭

指導者 長岡市立十日町小学校 金山 真理子 校長

○ 授業の概要

ボタンの役目や種類, どんなつき方をしているかを話し合い, 実際にボタン付けの練習をする。ボタン付けの仕方を学ぶ場面では, ICTを活用し教師の示範をプロジェクターで映しながら行う。ボタン付けの練習では, 地域のボランティアの協力を得てきめ細かい指導をする。



○ 協議

大きなボタンを使用するなど ICT を工夫して使うことにより分かりやすくなった。画像が残り何度も見ることができるようになることが課題である。ボランティアにより個々への対応ができた。打ち合わせをすると効果的になる。針などの道具類の扱い, ワークシートの活用, 評価の仕方, 実践的な活動を養うための家庭の協力などについての情報交換を行う。

○ 指導

新指導要領の全面実施を迎えて「家庭科における学習指導と評価の改善」と題し, 家庭科の5つの実践課題について指導をいただいた。特に本時の授業では技能の習得が先ではなく小物作りという目的をおいて技能の習得をしていくことも児童の意欲につながっていく。問題解決的な授業を仕組むこと, 言語活動の充実についても意識的に取り組むことが大切である。

(2) 第2回部会 11月15日 実技研修「生活に役立つ物の製作」

指導者 県立教育センター 山岸 和子 指導主事

会場 燕市立吉田南小学校

○ 実技研修の主な内容

・「生活に役立つ物の製作」で育てる力, 中学校との関連などについての講義

・「布製ブックカバー」の製作

(文庫本用のリバーシブルのブックカバー)

・質疑, 情報交換, 題材例の検討

○ 成果

・小学校だけでなく中学校の内容を知ることにより関連性や系統性の理解ができた。

・小物などの実物を見ることや実際の製作を通して, 縫い方や指導上の留意点について考えることができた。



